

各 位

News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

令和7年度

地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長 関口憲一）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年10月から令和7年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補を公募してまいりました。このたび応募174件の選考を終えて57件の助成対象を決定し、助成金目録の贈呈を行なうこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、今回の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,518件になります。

【お問い合わせ先】

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒163-0633

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル33階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

記

1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする公募を、令和6年10月から令和7年1月31日まで行ない、174件の申込みを受け付けた。

2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事・民俗音楽を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。

3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査（2月20日）を経た後、理事会（3月6日）の承認を得て決定。

【伝統文化分野選考委員】（敬称略）

委員長	星 野 紘	全日本郷土芸能協会理事長
委員	神 野 善 治	武蔵野美術大学名誉教授
〃	齊 藤 裕 嗣	國學院大學兼任講師
〃	田 中 宣 一	成城大学名誉教授
〃	茂 木 栄	國學院大學名誉教授
〃	山 内 彰	当財団元理事

4. 助成決定件数・助成金額

(1) 令和7年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部 門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	167件	52件	2,135万円
民俗技術	7件	5件	165万円
合 計	174件	57件	2,300万円

(注) 都道府県別の助成対象および金額等は、3～8頁(民俗芸能の部および民俗技術の部)をご参照願います。

(2) 【ご参考】助成件数・金額の推移(金額単位:万円)

年度	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
平成3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
29年	42	1,811	1	39	43	1,850
30年	41	1,775	2	75	43	1,850
令和元年	39	1,736	3	114	42	1,850
2年	39	1,740	3	110	42	1,850
3年	42	1,813	1	37	43	1,850
4年	43	1,820	2	80	45	1,900
5年	47	2,075	1	25	48	2,100
6年	57	2,061	4	139	61	2,200
7年	52	2,135	5	165	57	2,300
合計	1,389	70,461	129	4,686	1,518	75,147

5. 助成金目録の贈呈

第一次推薦者(市町村教育委員会等)の庁舎、もしくは最寄りの明治安田生命支社において贈呈式を行なう予定。

令和7年度 地域の伝統文化 助成対象 (敬称略)

1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽を含む)

52件 2,135万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
北海道	シモガロウシホゾンカイ 下賀老獅子保存会	40	大正10年創始の獅子舞。戦時中2年間中断,昭和20年復活。平成に入り中断,令和5年20年振りに再開。目名八幡神社秋祭に奉納。派手な動きと時折観客を笑いの渦に惹き込む獅子舞
	下賀老獅子舞		道具購入費(衣装を除く)
北海道	エサシモツキハヤシホゾンカイ 江差餅つき囃子保存会	20	江戸後期～明治初期創始の餅つき囃子。縁起の良い唄で始まり,笛・太鼓・三味線で演奏。江差追分会館出演の他,祝事に招かれ披露。唄の中のアイ節は熊本県牛深のアイ節から派生,その北限とされる
	江差餅つき囃子		道具購入費(衣装を除く)
北海道	ハホロチョウカガシホゾンカイ 羽幌町 加賀獅子保存会	50	大正11年石川県出身者が始めた加賀獅子。昭和28年中断,昭和49年保存会結成し復活。羽幌神社夏祭に奉納。大きな角の獅子頭・棒振り尾張獅子系。神輿渡御に加賀獅子・奴振り・女神輿・子供神輿・オロン太鼓を従う
	羽幌町加賀獅子舞		道具購入費
青森県	トメキカゲライ 百目木 神楽会	45	江戸前期創始の山伏神楽。一時衰退,令和5年20年振りに2頭の獅子頭による権現舞が復活。八幡神社例祭に権現舞を奉納。2頭の獅子頭による権現舞が特徴
	百目木神楽		道具購入費
青森県	シラカズンカイ 白糠婦人会	50	南部地方から伝わった手踊り「七福神舞」「大黒舞」。大正期に衰退,婦人会により復興。七福神舞は祝事に無病息災を祈願し舞う。大黒舞は航海安全・大漁追福を願い小正月に門付けして回る舞
	七福神舞、大黒舞		衣装購入費
岩手県	ミヤゲシホトリホゾンカイ 宮手鹿踊保存会	50	平安後期創始の鹿踊。度々中断,明治29年復活。蜂神社夏祭に奉納。紫波郡内で数少ない,獅子が幕を広げて踊る「幕踊系」鹿踊。門付けも継承
	宮手鹿踊		道具購入費
岩手県	ウスザラシホトリホゾンカイ 臼澤鹿子踊保存会	60	寛永年間(1624～44)創始の鹿踊。小槌神社秋祭に奉納。お旅所・門打ちでも舞う。元旦及び6月小槌神社奥宮にも奉納。43舞継承。ドロの木を薄く削ったカナガヲを纏い,太鼓に合わせ荒々しく激しく踊る
	臼澤鹿子踊		道具購入費
宮城県	マサシホトリホゾンカイ 真坂鹿踊保存会	50	慶長2年(1597)創始の鹿踊り。藩政期,伊達家が保護・育成。昭和26年保存会結成。8人で踊り「ハツ鹿踊り」と呼ばれる。長いササヲを腰に差し木彫の鹿の頭と本物の鹿の角を付け鹿の姿を真似て勇壮に踊る
	一迫町鹿踊		道具購入費
秋田県	コウラカグラホゾンカイ 金浦神楽保存会	60	江戸末期創始の黒川神楽が昭和15年伝わった金浦神楽。金浦山神社春祭に奉納。鉢巻・化粧まわし姿の小中高生が激しく動きながら手首を回し太鼓を背面打ちするのが特徴。4演目継承
	金浦神楽		道具修繕費
山形県	クラテンカクホゾンカイ 吹浦田楽保存会	20	鎌倉期創始の田楽舞。明治元年から社家が継承,戦後衰退,昭和42年保存会結成し再興。鳥海山大物忌神社春祭に奉納。舞7曲継承。花笠舞は終りに舞台から投げる花笠を観衆が激しく奪い合う
	吹浦田楽舞		花笠製作費
福島県	マツカワカグラホゾンカイ 松川神楽保存会	30	江戸中期創始の「宇多郷の神楽」の一つ。昭和40年中断,昭和57年保存会結成し復活。大雷神社春秋祭・夕顔観音春祭に奉納。震災後,他に先駆け復活。当保存会は早くから女性へ門戸を開放
	松川神楽		道具購入費(衣装を除く)

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
茨城県	サクラツカオハヤシホゾンカイ	40	江戸中期創始の祇園囃子。明治期に大杉信仰と祇園祭礼が融合し12曲の祇園囃子を確立。関本神社夏祭に奉納。昭和30年代に「おはやし保存会」が組織され、現在では6つの集落を母体とする6保存会が継承 道具購入費(衣装を除く)
	櫻塚おはやし保存会		
	関本祇園囃子		
栃木県	カガヌマチマングウエダイタイタイカク	55	嘉永2年(1849)創始の太々神楽。絶えず継承。昭和52年保存会結成。長沼八幡宮春祭に奉納。地元中学校学校祭に生徒のみで神楽を奉納 衣装購入費
	長沼八幡宮永代太々神楽保存会		
	長沼八幡宮永代太々神楽		
群馬県	ツバキジソウジヤグイタイカクヲソゾ	15	大正6年創始の里神楽。椿名神社春秋祭に奉納。9舞継承。着面し御幣・矛・剣・小槌・扇・鈴を手に持ち、笛・大太鼓・小太鼓に合わせて踊る黙劇。神話を題材に五穀豊穡・商売繁盛を願う庶民性が特徴 道具購入修繕費
	椿名神社太々神楽保存会		
	椿名神社太々神楽		
埼玉県	カガノササシマイホゾンカイ	60	正徳3年(1713)創始の1人立ち3匹獅子舞。久伊豆神社秋祭に奉納。戦後中断、昭和55年保存会結成し復活。鐘巻等4演目継承。県内最古の「竜頭獅子」の獅子頭につける5色の色紙は、演舞後お札とされる 道具衣装購入費
	長野ささら獅子舞保存会		
	長野ささら獅子舞		
埼玉県	シモナグリソウジヤグイタイカクヲソゾ	60	江戸後期に当地に伝えられた1人立ち3匹獅子舞。諏訪神社夏祭に奉納。6演目継承。最後の演目「白刃の舞」が有名、長刀を持つ二人が獅子と組み勇壮に舞う 道具修理費
	下名栗諏訪神社獅子舞保存会		
	下名栗諏訪神社の獅子舞		
千葉県	ムラカミカクヲソゾカイ	35	織豊期創始の神楽。七百餘所神社の1月・10月祭礼に豊作祈願・感謝を込めて奉納。当初の12座中9舞を継承。天正11年(1583)記銘の鞆鼓を保有。1月祭礼では市内唯一の「湯立て神事」を行なう 道具購入費
	村上神楽保存会		
	村上上の神楽		
東京都	サカエチヨウハヤシレン	40	大正6年引田地域より指導を受け始めた神田流囃子。阿伎留神社の秋祭・水無月祭・元旦祭に奉納。6曲継承、うち2曲は発祥元から学び近年復活。昭和12年以来、例大祭では神社神輿の宮出し囃子を担当、神楽殿で演奏 道具修理費
	栄町囃子連		
	神田流囃子		
神奈川県	ソカベッショマツリホゾンカイ	30	江戸期創始、宗我神社秋祭に山車5基が祭囃子を競演し奉納。4年に1度、神社の本神輿が曾我の郷を巡行。当地の山車が2体の高砂(老爺・老婆)を飾る。当地の囃子は小田原囃子の一つ 道具購入費
	曾我別所祭保存会		
	宗我神社祭礼の山車と囃子		
神奈川県	キクノアヤマトリホゾンカイ	50	江戸末期創始のあめや踊り。平成元年衰退、平成20年地元上演を復活。白山神社秋祭に奉納。歌舞伎・地狂言を取入れた芝居物の「段物」3演目と、踊り中心の「手踊り」4演目を継承。県内では菊名のあめや踊りのみ 道具購入費
	菊名のあめや踊り保存会		
	菊名のあめや踊り		
新潟県	リカミヤハチマングウカクヲソゾカイ	50	宝暦年間(1751～64)創始の太々神楽。若宮八幡宮秋祭に奉納。32面の神楽面と26座の舞を継承。舞数の多さと出雲神楽と伊勢神楽の要素が混然とした形態は全国的にも稀少。令和4年、130周年大祭を斎行 衣装購入費
	若宮八幡宮御神楽保存会		
	若宮八幡宮神楽舞		
富山県	ヒエダテンノウブンカホゾンカイ	35	明治25年創始の祭礼。稗田神社春祭に獅子舞、秋祭に神輿を奉納。射水型と氷見型の2台の神輿を保有し2種類の舞を行う。12演目継承。神輿が火の中を走り抜ける「火渡り神事」が令和元年、46年振りに復活 衣装購入費
	稗田伝統文化保存会		
	稗田神社の神輿巡行と火渡		
石川県	ホンマチサンチヨウメシマイホゾンカイ	60	江戸末期創始の加賀獅子。2年に1度、本町地区の秋祭に奉納。白獅子・赤獅子の2頭を武器を持つ2人の「棒振り」が退治する勇壮な「殺し獅子」が特徴。白獅子は慶応2年(1866)作。市内5地区の獅子舞団体の一つ 道具購入費
	本町三丁目獅子舞保存会		
	本町三丁目の獅子舞		

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
福井県	ハカバヤシホゾノカイ	55	戦国期起源の祭囃子。火産霊神社春祭に奉納。着面の役者が笛・小太鼓・鉦の囃子に合わせ太鼓を打ちゆったりと舞う。5年・10年毎の大祭には山車を巡行。継承する37面中に平泉寺の出目作・春日作あり
	馬鹿ばやし保存会		
	馬鹿ばやし		
長野県	マメジマカゲラホゾノカイ	20	450年以上前建立の更級新明大神社に奉納されてきた太々神楽。一時衰退、昭和45年保存会結成し復活。更級神明大神社の春・秋・冬祭に奉納。大人と子供の二人立ち女獅子。3舞継承。平成9年子供獅子教室を開始
	大豆島神楽保存会		
	更級神明大神社太々神楽		
岐阜県	カミロセキノウジシホゾノカイ	20	織豊期に伝わった金蔵獅子。諏訪神社・加茂神社秋祭に奉納。広瀬町・上広瀬・金桶の3地区で継承。笛・太鼓・摺鉦に合わせ獅子(二人舞)と金蔵・おかめが踊る。男神・女神が協力し獅子退治を行う
	上広瀬金蔵獅子保存会		
	金蔵獅子		
静岡県	ヨコオハチマンジンジャカゲラホゾノカイ	25	室町中期創始の神楽「四方の舞」。毎年10月の2日間、横岡八幡神社に奉納。烏帽子・直垂・緋袴姿の男児による神楽舞と、二人一組の天冠・直垂・緋袴姿の女児による巫女舞。男児が舞う里神楽は全国的にも希少
	横岡八幡神社神楽保存会		
	横岡八幡神社の神楽		
愛知県	イイサレイホゾノカイ	30	江戸期創始の祭囃子。桜井神社秋祭に奉納。8年周期で神楽も奉納。囃子5曲・神楽9舞継承。屋形に大小太鼓を取付、笛太鼓の演奏で集落内を巡行。神楽奉納始めと終わりに花火を打上げ
	印内祭礼保存会		
	桜井神社の祭礼		
愛知県	オイケグミ	11	安政元年(1854)創始の祭礼。昭和23年山車を創建。神明神社春祭に地区3組(大池・上村・平田)がそれぞれ山車を曳行、からくり人形・三番叟・お囃子を奉納。山車・大太鼓は町指定有形文化財
	大池組		
	布土区祭礼		
滋賀県	オミジマツリヨウグミキヤマホゾノカイ	30	元和5年(1619)創始の曳山祭。日吉神社春祭に奉納。山車5基の上で子供が大太鼓・小太鼓・鉦・篠笛を演奏。会員(町内住民)減少に備え、早期から女子の参加・組外からの囃子方導入を実施
	大溝祭籠組曳山保存会		
	大溝祭曳山のお囃子		
京都府	イネヨウ ホンジョウアケク	37	江戸後期創始の祭礼行事。戦時中から昭和45年まで中断。宇良神社夏祭に棒振り・小太刀・太刀振り・花の踊りを奉納。本庄地区の3地区(上・宇治・浜)が継承。旧来の太刀飾り・造花・御幣の手作りの手順を維持
	伊根町 本庄上区		
	本庄上太刀振り		
大阪府	カエセイネカイ	35	明治30年創始の生野区のだんじり。地車4台保有。清見原神社夏・秋祭に奉納。生野まつり・地車in大阪城に参加
	片江青年会		
	生野のだんじり(囃子)		
大阪府	テヤシキョウジグルマホゾノカイ	40	天明5年(1785)以前創始の泉大津・濱八町のだんじり祭。大津神社秋祭に8町(濱八町)がだんじり曳行。だんじり同士がぶつかり合う「かちあい」は濱八町のみ。当町独特の太鼓の叩き方「七段返し」は中国人の指導
	出屋敷町地車保存会		
	濱八町のだんじり(囃子)		
大阪府	カノチヨウジグルマホゾノカイ(カノチヨウセ)	34	江戸後期創始の仲之町だんじり祭。忠岡神社春秋祭に奉納。仲之町では祭礼の宵宮午前中に幼児曳行を実施。現在の地車は平成3年製作の四代目
	仲之町地車保存会(仲之町世話人会)		
	仲之町のだんじり(囃子)		
大阪府	ヒガシハコロモジグルマホゾノカイ	8	昭和50年代創始の高石だんじり祭。明治20年製作の地車を保有。大鳥大社分社の羽衣濱神社秋祭に奉納。高石市史に『江戸期に神社へ地車宮入』の記載あり
	東羽衣地車奉賛会		
	高石だんじり(囃子)		

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
大阪府	サヤマツリホゾノカイ	30	江戸後期創始の狭山だんじり祭。狭山神社秋祭に地車を曳き奉納
	狭山まつり保存会		道具購入費
	狭山だんじり（囃子）		
兵庫県	マツハラジンジヤクホゾノカイ	50	江戸後期創始の梵天太鼓台曳行。昭和28年中断、昭和58年保存会結成し復活。松原神社秋祭に子供だんじりとともに奉納。四本柱型の裸太鼓台。柱の先端は御幣（梵天）・笹で装飾。神前で「差し上げ」「返し」を行う
	松原神社太鼓保存会		道具購入費
	旧浜田村秋季例大祭		
和歌山県	ヒラマツシマ体ゾノカイ	40	江戸期創始の古座獅子が明治初期に伝わった平松獅子舞。昭和50年代に衰退、昭和55年保存会結成し復興。王子神社秋祭に奉納。9演目継承。お宿出発・宮入の際、木遣り唄を歌うのが独特
	平松獅子舞保存会		道具購入費
	平松の獅子舞		
島根県	ミタニカゲラシヤチュウ	70	明治初年創始の三谷神楽。当初の六調子の神楽（西流）に八調子革新神楽（東流）を明治末期に導入。近隣神社の祭礼で披露。木彫りが主体の面は東流の影響。昭和10年製の刺繍物衣装は豪華で稀少
	三谷神楽社中		道具修繕、新調費
	三谷神楽		
広島県	クレシヒロツボジチカイ	60	江戸後期創始の神楽。小坪八幡神社秋祭に奉納。儀式舞5演目、形式舞16演目を継承。5台の太鼓と笛の演奏に飛び入り参加が可能。全ての演目を2枚の筵の上で舞うという瀬戸内沿岸の神楽の古形を保持
	呉市広小坪自治会		道具購入費
	小坪神楽		
山口県	ムツカガラホゾノカイ	50	明治37年、津和野畑迫から石見神楽を習い受け、その後昭和5年、浜田市日脚町から新たに学び創始。高佐八幡宮秋祭に奉納。八調子神楽と六調子神楽の要素を併せ持つ。平成4年に子供教室、平成5年シルバー神楽を開校
	むつみ神楽保存会		道具購入費
	むつみ神楽舞		
徳島県	キノウチシマ体ゾノカイ	60	江戸中期創始の木ノ内獅子舞。大正期に中断、昭和3年復活。野村八幡神社秋祭に奉納。大太鼓・小太鼓・拍子木の囃子により2頭の暴れ獅子を鎮める。学校や地域イベントにも出演。コロナ前の活動規模に回復
	木ノ内獅子舞保存会		道具修理費
	木ノ内獅子舞		
香川県	タルミジンジヤククグミホゾノカイ	60	天保年間（1830～44）創始の奴行列。垂水神社秋祭に神輿行列を先導。挟箱2台・鳥毛6本と2人1組で構成。祭り前日は隊列を組み伊勢音頭・甚句を歌い妙技を見せ町内を巡行。10地区が輪番で奉納
	垂水神社奴組保存会		道具購入費
	垂水神社の奴行列		
愛媛県	コヤタキシホゾノカイ	24	明治初期創始の継ぎ獅子。継ぎ獅子は子供を肩や頭の上に立たせ、子供は太鼓に合わせて踊る。多伎神社の獅子舞は明治初期の春例祭奉納から続く。今治・越智地域全体で20余連、獅子が神社を出て舞うのは唯一
	古谷多伎獅子保存会		衣装補修費
	継ぎ獅子と獅子舞		
高知県	ヤシロセイネタン	40	江戸期創始の農村歌舞伎。青年団が頭屋制で継承。戦時下も継続。大夫・鳴物・衣装・着付・床山の費用は本氏子からの「踊り金」で賄う。八代八幡宮秋祭に奉納。神楽殿の中の「八代の舞台」は国指定有形文化財
	八代青年団		道具購入費（DVDを除く）
	八代青年奉納歌舞伎		
佐賀県	ヨブコオツナヒキンコウカイ	30	織豊期創始の綱引き行事。昭和56年振興会結成。「浜組」と「岡組」に分かれ長さ200mの大綱を引き合う。5月の節句行事として始まり現在6月第1土・日曜日に催行。北九州で多いお盆の綱引き行事とは時期が異なる
	呼子大綱引振興会		資材購入費
	呼子の大綱引き		
長崎県	モリヤマホンムラキョウトゲイノウホゾノカイ	25	文化年間（1804～18）創始の浮立と掛打。田植え後の祈祷祭等に奉納。笛・鉦・小太鼓・大太鼓で演奏。8演目継承。掛打鬼面を付け腰鼓を首から吊るし打つ掛打は平安起源ともされ、白塔地区のみで継承
	森山本村郷土芸能保存会		道具購入費
	白塔掛打		

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
長崎県	サライマニギョウジヨウリホソノカイ	50	享保18年(1733)創始の人形浄瑠璃。戦時中衰退,昭和28年保存会結成し復興。皿山郷大神宮夏祭に奉納。50体以上の人形・衣装を保有。時代物の浄瑠璃等8演目継承。安政5年製作の役割手控を所蔵
	皿山人形浄瑠璃保存会		
	皿山の人形浄瑠璃		
熊本県	イワトカクラホソノカイ	26	明治4年村民の幸福と豊かな生活を祈願するため創始。発足100周年の昭和46年,保存会結成。岩本菅原神社夏秋祭・弁利姫井乙姫神社夏秋祭・天神祭に奉納。20~30代男性による神楽連が代々継承。全8座から構成
	岩本神楽保存会		
	岩本神楽		
宮崎県	ホマンボウアケウマホソノカイ	50	文禄4年(1595)創始。朝鮮出兵の際の薩摩藩の神社奉納を伝える祭。4年に1度,諏訪神社夏祭に子供・荷物を乗せた12人が舞う神楽「ひょうたんさし」を奉納。馬方による歌は400年前の風習・文化が残る
	穂満坊あげ馬保存会		
	穂満坊あげ馬		
鹿児島県	イサクヤフサホソノカイ	70	天文7年(1538)創始の流鏝馬神事。宮下・宮内両家の世襲で継続,平成6年保存会結成し継承。11月23日の浜下り神幸祭後に2頭の馬で挙行。県内3箇所継承,旧薩摩領内では当会が唯一
	伊作流鏝馬保存会		
	伊作流鏝馬		
沖縄県	オカネツジノカイ	50	沖縄本島北部の盆の踊りの一つ。「大兼久の七月エンサー」は2年に1度,豊年祭の先陣を切り舞う。女性が鼓に合わせて右手指に小布を挟み輪になり歌い踊る。アブシハレーのハーレー競漕・門嘉例でも踊る
	大兼久婦人会		
	大兼久の七月エンサー		
			道具購入費
			衣装購入費
			道具修理購入費
			道具購入費
			馬購入費
			道具衣装購入費

2. 民俗技術の部 (伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む) 5件 165万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
宮城県	シロイシプロジェクト	40	江戸期創始の紙布織技術。昭和初期に衰退。昭和15年研究所を設立し復活,平成4年和紙製造を白石和紙蔵富人,紙子製造を佐藤工房が継続。白石紙布は東大寺修二会で練行衆が昭和48年以來着用 記録誌制作費
	しろいしプロジェクト		
	白石紙布製作技術		
東京都	オジノマイシノタケイデントウキ	30	江戸後期創始の「めかい籠」製作技術。大正～昭和初期に盛行。高度成長期に衰退。平成28年当会を設立し継承。篠竹を六つ目編みした籠。多少の破損は補修により継続使用が可能 道具購入費(音響設備を除く)
	小野路のめかい 篠・竹細工伝統技能保存会		
	めかい籠製作技術		
岐阜県	コヤシヨウケホソカイ	40	江戸後期創始のざる製作技術。野菜の水切り・米上げに使用。スズタケ・マタタビ・ツタウルシを鎌・鉋を加工した専用の道具を使用。底と胴が一体の浅い楕円形。極めて精巧で長持ちし美しい網目が特徴 材料購入費
	小屋名しょうけ保存会		
	小屋名しょうけ		
兵庫県	カヤマシゲイテン	30	享保年間(1716～36)創始の麦わら細工技術。湯治客用土産として開発。大正14年震災で衰退,昭和5年麦稈組合結成し復興。模様張り・小筋張り技法によりきめ細やかで美しい装飾を施す。染料は地元産 作業台購入費
	かみや民藝店		
	城崎麦わら細工		
鹿児島県	イキタワシホソカイ	25	明治23年,薩摩半島から伝わった和紙製作技術。昭和初期,障子紙用として定着。昭和45年途絶。昭和61年,子供会活動の一環として復活。校内で原料栽培から紙漉きまで学習。小6・中3の卒業証書は生徒の自作 道具購入費
	伊崎田和紙保存会		
	伊崎田和紙製作技術		

【ご参考】「重要無形民俗文化財の指定」に定められた助成先

令和7年1月に文部科学省(文化庁)が新たに重要無形民俗文化財に指定した4件のうち下記の1件1団体が、当財団がこれまでに行なった助成先から該当いたしました。

保存継承に関わってこられた地元関係者のみなさまのお喜びはもちろんですが、当財団にとりましても、今年も引き続き助成先から選ばれた事はたいへん嬉しいニュースです。

【重要無形民俗文化財の指定】

区分	決定年月	文化財名称	保存団体	地 域	助成年度
国指定	令和7年1月	白鳥の拝殿踊	白鳥拝殿踊り保存会	岐阜県郡上郡白鳥町	平成6年

以 上

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団（理事長：関口憲一）は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などを行ない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

財団の概要

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年（1991年）6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	14億6,400万円（2024年3月末日現在）
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能（含、民俗行事、民俗音楽）の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術（含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸）の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況（2025年3月現在） ・音楽分野 613件 10億5,040万円 ・伝統文化分野 1,518件 7億5,147万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社